

Hyper Ing 2013

"Hyper Ing"は上高生を応援する先輩メッセージです。上野高校 HP→進路指導室→進路通信でバックナンバーが閲覧できます。

上野高等学校進路指導部 vol.24 2013/12/21

職業体験講演会 最前線で活躍する先輩にお話を伺いました！

10月30日(水)、1年生向け「職業体験講演会」に上野高校OBでライフネット生命保険代表取締役会長兼CEOの出口治明さんに来ていただきました。講演と、講演後のインタビューを富澤がまとめてみました。



体育館で 本文中の表は講演会のスライドからの引用です。

『これからの日本を担う若い皆さんへ』

人間は動物の一種です。朝、昼、晩とご飯を食べないと生きていけません。皆さんは今、親にご飯を用意してもらっていると思いますが、他の国では18歳で高校を卒業すると家を出て自立します。動物として一人前になるということは、自分で働いて食べるもの、着るもの、寝るところを用意することです。昔の人は「衣食足りて礼節を知る」という言葉を残していますが、「自分で働いて食べる」ことができこそ礼儀や節度があるのです。

しかし皆さんの親はただご飯を食べるために働いているのではなく、自分のやりたいことや夢を追っていると思います。聖書の言葉に「人はパンのみにして生きるにあらず」とあります。人間はご

飯を食べるだけでは満足しない。「生き甲斐」、「やり甲斐」が必要です。

皆さんは上野高校に入って、100%満足しているわけではないと思います。「もう少し授業がわかりやすければ」、「こんな設備が欲しい」と考えたことがあると思います。言い換えると「自分の住んでいる世界を経営したい」です。人間は神様や魔法のランプの精ではないので、できることは限られますが、「自分の周囲をよくしたい、そのために自分に何ができるか」を自問することが「パンのみにして生きるにあらず」です。

そのためには、まず自分の住んでいる世界を正確に理解する必要があります。しかし人間の脳は見たいものしか見ない、自分の都合の良いように物事を認識してしまう傾向があります。そこで次の二つのことに気をつけます。

ひとつは「タテとヨコで思考する」です。タテは時間で、例えば「私は何を考えてこの高校に入学したのか」です。ヨコは空間で、「周りの人は何を考えているか、世界の同い年の人はどういう環境で勉強しているか」などです。このように時間や空間を軸にして考えることで自分の生活を客観視できます。

もうひとつは「数字、ファクト、ロジックでのみ考える」です。人と議論して相手を納得させるには客観的なデータが必要です。例えば「北京の大気が汚染されている」を考える場合、その具体的な数値と、四日市の過去のデータと比較すれば、北京の現状は日本で公害が深刻になった時代に似ていることが見えてきます。このように数字とロジックを使うことで自分の身近がよりクリアになります。

今、日本は世界でどのような位置なのか、2つのグラフを見てみましょう。ある調査によると日本は現在世界で24番目の国際競争力を有するそうです。経済規模の指標である国内総生産(GDP)は米国、中国に次ぐ世界第3位ですから、規模は大きい割に仕事の効率は悪いといえます。このままではGDPも4位以降に落ちる可能性があるため、競争力を上げていかないと今よりもちょっとずつ貧しくなる、という状況です。もちろん、若い皆さんが仕事をして競争力があがる楽しみがある、という見方もできますが。

もうひとつは「新聞や雑誌に書かれていることを信用するかどうか」の国際比較です。日本は10人中7人が「信

頼する」と回答しています。発展途上国で値が高く、先進国で低い傾向です。イギリスは10人中1人です。

これは皆さんの親の世代の日本が「キャッチアップ型社会」、理想のモデルに向かってみんなで頑張る社会だったからだと考えられます。日本は貧しい国だったので早くアメリカのような豊かになりたい、「三種の神器」「3C」に代表される、「一生懸命働いてカラーテレビや自家用車を購入する」という明確な目標がありました。現在の日本や欧米ではこうした消費財はほぼ行き渡り、もはや単純なキャッチアップは成立しない社会です。皆が自分の頭で考え、課題を見つけて解決することが要求される時代です。皆さんの親の世代は考えなくても走っていけば豊かな生活に到達する「幸せすぎた」時代だった。この調査は日本社会の様子を反映しているといえます。

これからの社会を生き抜くために、皆さんは自分の頭で考える癖をつけていかなければなりません。そのためにはどのような準備が必要でしょう。人間の身体は「不器用」です。例えばスキーは、滑りやすい雪上で滑りやすいスキー板を履いているのに、ちゃんと教えてもらって練習しないと滑ることができません。人間の脳も同じで、色々なことを勉強して知識を得ないと考えることができません。

坂本龍一さんという作曲家がいます。彼は『ラスト・エンペラー』など、アカデミー賞で数々の賞を受賞しています。インタビューで「どうしてこのような独創的な音楽を次々に生み出されるのですか。どこに才能の元があるのですか」と問われたとき、彼は「私は才能がないと思います。友達の方が私よりいいひらめきを持っています。私は小さな時から変な赤ちゃんで、音楽が鳴っているとニコニコ笑うので、私の親は24時間中、クラシック、ジャズ、歌謡曲などあらゆるジャンルの音楽を流していたそうです。大人になって私が何かを表現したいと思ったとき、私の脳が小さい頃に聴いた音楽の記憶を適当に引っ張り出して、組み合わせているだけです」と答えています。

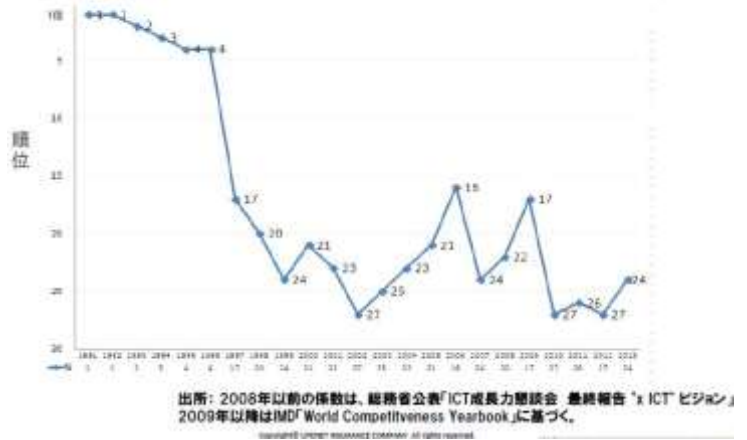
これは非常に示唆に富む話です。皆さんがものを考えるときに、脳の中に色々な知識がため込まれている必要があります。島崎藤村はこれを「三智」、本を読む、先生や人の話を聞く、自分でやってみる、と呼んでいます。私はそれを自分の言葉にして「人・本・旅」、人に会って様々な意見を聞く、本を読む、色々なところに出かける、と言っています。こういうことでしか皆さんの頭の中に音符をため込むことができません。

音符を頭に入れるためには「アウトプット」が効果的です。先生の話で面白かったこと、映画を見て感動したことなどを友達に話したり文章にしたりすると、インプットが強まるだけでなく、自分の意見を整理し、客観視することができます。

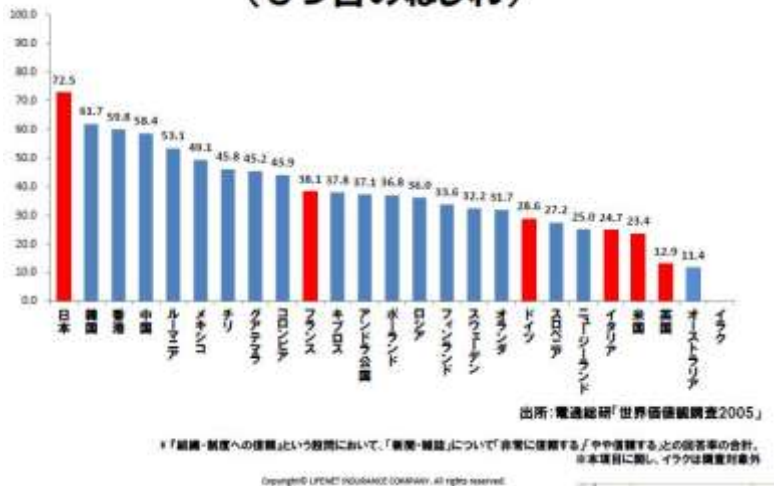
さらに議論することも重要です。それもできるだけ自分と違う人と議論することです。これを「ダイバーシティ」多様性と言います。上野高校にはイギリス研修の制度があると聞きましたが、全く違う環境で育った人と話をすると脳がびっくりして刺激になります。ぜひ参加して、自分から積極的に外国人に話しかけて下さい。

このように、色々な音符を頭に入れることは皆さんの将来の準備をしていることに繋がります。たくさん音符を入れれば入れるほど可能性が広がり、人生の選択肢も増えます。私も高校生の時にはわからなかったのですが、勉強は大

3. 日本の国際競争力の推移



4. メディア vs 自分の頭で考える (3つ目のねじれ)



学に行く準備ではなく、これからの長い人生を豊かにする武器になる、と考えれば勉強が楽しくなります。

では具体的にどのように勉強すればいいでしょうか。まずは新聞を活用する勉強法です。図書館などへ行って新聞3紙のトップ記事を比較します。よほどの重大事件ならどの新聞も同じトップ記事でしょうが、普段のトップ記事は新聞によって違います。また同じ事件の報道でも新聞によって記事に長い、短いがあります。どうしてこうなっているのか、普段から考える癖をつけます。わからなければ親や先生に聞いてみましょう。

次に本を読むことです。読書は最も効率的な学習法です。例えばオバマ大統領の話が聞きたいから毎週ワシントンに通ったとしても、たぶん大統領に会うことはできません。それよりもリンカーンの演説集を借りてきて一晩かけて読めばリンカーンを独占できます。先生方が「読んだ方がよい」と勧めるものはたいてい古典です。古典は世界中の人が名作だと言っているものばかりです。そうした立派な人の話の中には考えるヒントがつまっていますし、小説であれば、「こういうときにはこうする」というケース・スタディになります。

本を読む時は好きなジャンルのものを読むことです。速読を勧める人がいますが、本の内容だけ知りたければインターネットで調べた方が早いです。読書とは「著者と一対一で向き合って話を聞くこと」だと思いますので、好きな本をじっくり読んだ方が頭に残ります。

7. 推薦図書

- ◆君たちはどう生きるか 吉野源三郎
- ◆学問のすすめ 現代語訳 福澤諭吉・齋藤孝
- ◆宇宙は本当にひとつなのか 村山 斉
- ◆単純な脳、複雑な「私」 池谷裕二
- ◆昭和史 半藤一利
- ◆自分のアタマで考えよう ちきりん
- ◆チボー家の人々 ロジェ・マルタン・デュ・ガール

インターネットを利用する機会が多いと思いますが、一度英語で検索することを勧めます。英語の情報は日本語のそれよりもボリュームが多いですし、内容が異なることもあります。新聞の読み比べと同じように考えれば勉強になります。ネット上の英語はそう難しくなく、知らない単語は辞書で引けばよいので、一度試してみてください。

推薦図書を何点かあげておきます(上から順に1~7)。1は50年前の本で、「人間が生きるとはどういうことか」について

書かれています。高校生の時期に読めば心にしみるところがあると思います。2はタイトルから「勉強をせよ」と勧めているように思えますが、「勉強したら何ができるか」が書いてあります。現代語に訳されていて読みやすくなっています。3は宇宙について書かれています。人間はどこから来てどこへ行くのか、というのは永遠のテーマですが、「人間は星のかけらからできた」というのが定説です。人間は宇宙からスタートしているのです。4は脳科学者が高校生向けに行った講義録で、脳とは何か、精神とは何かについて平易に書かれています。5は皆さんの親や祖父母の生きた時代の歴史です。今の日本は1945年の敗戦から始まった国ですから、日本を知るにはまず昭和の歴史からだと思います。6はアメリカで活躍されて今は日本在住の女性の著書で、自分で考えることがいかに楽しいことかが書かれています。7は私が高校生の時に最も印象に残って何度も読み返した本です。

私が上野高校で一番印象に残っていることは、校歌の三番、「吾等の望み山々を越えて溢れて外に出ん」です。人間にはものすごい可能性がある。思いがあるから実現する。思わなければ何も実現しません。これから上野高校で3年間、しっかり勉強をし、クラブもちゃんとやり、色々な音符を頭に入れて人生を切り拓いてください。

ただ社会は厳しいもので、人間の5000年の歴史の中で、やりたいと思ってチャレンジした人の99%は失敗しています。でも思わなければ100%実現しません。成功するかしないかは結果論であって、99%失敗するという事実を知りながら「何かを変えたい」と思った人が歴史を作ってきたのです。今から約1500年前、神の声を聞いたある男は仲間にもその話をしても信じてもらえず、妻だけに「あなたは嘘をつく人ではないから信じます」と言われました。その一言をきっかけに彼は自分の信じることを人々に語り始めました。そして50年後、当時の世界の半分近くがその教え＝イスラームによって統合されました。

どのような大きなことも始めるときはひとりです。自分の信じたことを仲間にも助けてもらって、世の中を変えていくのです。そう考えれば、人生は可能性があり、楽しいことだと思えます。

——ネットの生命保険を立ち上げた動機はなんですか？

出口 国民の平均所得がここ15年で14.1%減少しています。特に子育て世代の20代~30代の平均所得金額が低い。このままではますます少子高齢化が進みます。インターネットで売る保険を作って、安心して子どもを産んで

もらえるように、という思いでライフネット生命を立ち上げました。

——ネットで生命保険を販売すると保険料が安くなるのはなぜでしょうか？

出口 保険は統計のビジネスです。保険の原価（純保険料）はどこも一緒です。算出の元になる平均寿命や火事が起こる確率は誰が計算しても同じだからです。保険の価格の違いは付加保険料（会社の運営経費分）によります。インターネットで保険を売れば店舗費、人件費などが抑えられ、付加保険料が安くて済みます。

——ネットの生命保険はライフネット生命が世界初ということですが、苦労されている点は？

出口 認知度と信用です。ネット証券はクリックすればその場で取引が成立しますし、自動車保険も1年更新がメインです。一方生命保険は10年、20年と保険料を支払います。20年後本当にお金が支払われるのか、信頼してもらうために会社の情報を発信し（ソルベンシーマージン比率（支払い能力の指数）2000%、200%以上が健全）、論文を書き、ツイッターやフェイスブック、講演会をこなしています。人間はその人によって話を聞かないと信用できないものですから、情報を発信し続けるしかありません。

——会社のパンフレットを見せていただくと、様々な年代の方が働いています。ダイバーシティですね。

出口 定年がありませんので60代、70代の社員もいます。20代や30代、女性も多いです。社内取締役も、私ともう一人は保険畑ですが、社長と常務はコンサルティングとマーケティングの出身です。会社では週一回勉強会があって、社員が呼んできた「面白い人」に講演をしていただきます。私は80歳のタクシー運転手に依頼しました。その人は東京大空襲を逃げ延びた人で、タクシー会社に新人が入るたびにその様子を語っています。あらゆることは色々な所でつながっています。世界の大きな流れを知らなければどのような小さなこともできません。

——最後に、上野高校の後輩に向けて、「高校生の内にしておくべきこと」をアドバイス頂けますか？

出口 まずは「身体を作る」ことです。イギリスの教育は下半身を鍛えることから始まります。身体が頑丈でないと勉強になりません。次に「自分の考えを相手に通じるように言う」です。イギリスの幼稚園ではまず一週間かけてクラス全員を一对一で会話させます。そうすると人間は全員違う、外見が違えば考え方も違うことがわかります。違う相手に自分の考えが通じるように話をすることが必要です。最後は「数字、ファクト、ロジック」です。相手が自分の考えを納得するのは、それが検証可能だからです。好き嫌いで話をされても、それは個人的な思いであって客観的に検証できません。

生徒の感想より…

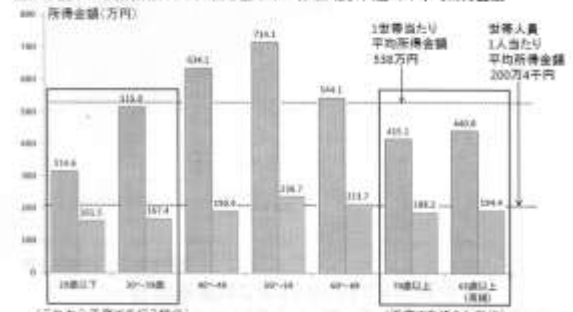
- ・ 「パンのみにて…」の話が印象に残りました。1回きりの人生、やりたいことをたくさんやって生きていきたいです。
- ・ 私は10人のうちの7人の方です。どんなに雑誌や新聞に書かれていようが、それが正しいとは限らないと考える国は強いんだなって思いました。
- ・ 坂本龍一は「自分は才能がない」と言っていたけど、今まで聞いてきたことを組み立てられることは立派な才能だと思った。
- ・ 本を読むことは自分の成功につながっていくのだと感じました。お薦めしていただいた本を読みたくて思いました。
- ・ 新聞や本を読むことは「筆者と一对一で対話する」という、人と話す基本の動作に当たることがわかりました。
- ・ 私はイギリス研修へ行って、レポートを書く授業で調べものをした時、英語の中に日本語の文章もあったので比べてみると少し違った内容だった。それ以来私は海外のニュース記事に関心を持つようになった。私のやっていることは無駄ではないと思った。
- ・ 私は今まで勉強は社会に出て働きだしたら使わないと思っていました。でも勉強の内容は使わなくてもその考え方は使うのかなと思いました。考え方を変えたら勉強を楽しめそうです。
- ・ 私は99%の方ばかり気にしていて、1%の可能性を気にしていませんでした。「絶対無理」じゃなくてチャレンジしようと思いました。
- ・ 出口さんは「社会の中で人々が安心して子どもを産め、生活できるように」という思いを持って会社を設立したと聞いて、何かのためにまず自分から行動することが大切なんだと感じました。

* 出口治明さんのツイッター、フェイスブック、ブログを訪れてくださいとのこと。ご講演、ありがとうございました。

20. 20代、30代の子育て世代が一番貧しい

子育てを終えた世代より、これから子育てをする世代の方が貧しい。
これが今の日本の実態です。

■世帯主の年齢階級別にみた1世帯当たり一世帯人員1人当たり平均所得金額



（これから子育てを行う世代）
1世帯当たり平均所得金額 552万円
1世帯人員1人当たり平均所得金額 200万4千円

出所：厚生労働省「平成23年 国民生活基礎調査の概況」
注：各世帯、世帯員より世帯員1人当たりを算出している。